

令和5年度 牧之原市議会

文教厚生委員会視察研修報告書

視察日 令和5年7月21日（金）

視察先 ◇静岡県島田市（「島田市こども館」について）

◇静岡県焼津市（「ターントクルこども館」について）

視察研修報告書

牧之原市議会議長 様

氏名 中野 康子

研 修 名	令和5年度 牧之原市議会文教厚生委員会視察研修
研修の期間	令和5年7月21日(金)
研 修 先	(1) 静岡県島田市 (2) 静岡県焼津市
研修の目的	(1) 静岡県島田市：「島田市こども館」について (2) 静岡県焼津市：「ターントクルこども館」について
<p>島田市「こども館」</p> <p>こども館建設の目的が、こどもの居場所を整備し、子ども、保護者、家族と多世代が集まることで、中心市街地に新たなにぎわいを創出することであると。私たちの市においても、こどもの居場所づくりをどのような形で整備すれば多くの市民に使用していただけるのかを模索しているところである。</p> <p>遊具の選定にあたって、企画課を中心とした検討チームで県内外の児童対象施設を重ねて選定したとの事。</p> <p>親子が共に楽しめるデンマークの最新体育理論に基づいたボーネルンド社の大型遊具が圧巻であった。</p> <p>また、障害のある親子に毎年夏休みの一日を開放しているとのこと。身体障害者と知的障害者の時間をわけて解放している点や、いろいろな世代が集まるという活動をしているなかで約束事をきちんと守ってもらう為、はじめにしっかりと説明していくことの大切さを力説していた。</p> <p>館長のことばの「大人の時間を食べ尽くす時間」という言葉に、親子で過ごす時間はスマホをしてはいけないことや、裸足で遊ぶ等、細やかな部分でも、遊びでも決まりをきちんと守らせたいという館長の心意気が感じられた。</p> <p>焼津市「ターントクルこども館」</p> <p>基本理念で、未来を担うすべての子どもたちが健やかに成長していくために集い、遊び、学び複合的な機能を配置し子どもを中心とした多世代交流ができる子育て支援の拠点を目指すというコンセプト、私達が理想とする居場所だという。</p> <p>オープンして2周年ということで、とにかく明るくきれいで親子で楽しめる居場</p>	

所であると思った。

こども図書館も貸し出しはしないでゆっくり本に親しむ時間を大切に考えており、親子で声を出して本を読むことができる。

木製の玩具や遊具にオリジナルを大切にし、焼津市の特色を出している点。特に大井川産木材を活用し、地元の木工職人による一つ一つのおもちゃがとても使いやすく、魅力的である。

大人も子どもも共に楽しめるすばらしい子ども館である。今後、我が市においてもこのようなすばらしい子ども館を作りたいと思う。

廃校となる学校の体育館を利用し、牧之原市の特色を出して、水を利用した子ども館にしたいと思った。

視察研修報告書

牧之原市議会議長 様

氏名 濱崎 一輝

研 修 名	令和5年度 牧之原市議会文教厚生委員会視察研修
研修の期間	令和5年7月21日(金)
研 修 先	(1) 静岡県島田市 (2) 静岡県焼津市
研修の目的	(1) 静岡県島田市：「島田市こども館」について (2) 静岡県焼津市：「ターントクルこども館」について

今回は、所管事務調査事項となっている「人口増加に繋がる魅力ある子育て施策について」、これまで子育て世代の保護者との市民会議や、議会報告会（市民との意見交換会）でも多くの要望があった、親子で遊べる全天候型の室内施設の先進地への視察研修を行った。

▶ 静岡県島田市「島田市こども館」

（施設設置の目的）

こどもの居場所を整備し、こども・保護者・家族との多世代が集まることで、中心市街地に新たな賑わいを創出する。



(施設の特徴)

- 市の中心市街地に位置し、建物は複合施設（図書館・スーパーマーケット・居住エリア）となっているため、子育て世帯だけでなく、地域住民や幅広い年齢層の市民にとって便利な立地環境である。
- 1フロアに広々とした空間が広がり、テーマごとに年齢に応じた遊具などが配置されていた。リスクヘッジの観点からも、スタッフの目が細部まで行き届く作りになっていた。
- 市内外により利用料（2時間ごとの時間制）が異なるが、割安な料金設定となっているため、リピーターが多い要因になっていると感じた。
- 施設の管理運営は、指定管理者（東海ビル管理（株））制度を活用。民間が運営を行うことで、行政だけでは対応できないサービスも提供できる。
- 施設開設にあたり、遊具の選定（海外：ボーンランド社制）にこだわったことで、そのこだわりが集客にも繋がっているようだ。（他者との差別化）その反面、設備に不具合が生じた場合の対応が難しいようだ。
- 施設利用者は、市内よりも市外の人が多く利用している。そのため、市内の利用者を増やしたいとのこと。

▶ 静岡県焼津市「ターントクルこども館」

(整備基本構想)

- 未来を担うすべての子どもたちが、限りない夢と想像力を持ち、健やかに成長していくために、集い・遊びの機能に加え、読書や体験などの成長段階の応じた学びの機能を配置する。
- 子どもを中心とした保護者や幅広い世代の人々、子育て支援団体等が交流できる子育て支援の拠点を目指すことを基本理念とする。



(施設の特徴)

- 比較的市の中心市街地に近いエリアに位置し、建物は階層ごとにコンセプトを持ち、こども図書館とおもちゃ美術館を融合した、他にはあまり類を見ない特色をもった施設である。そのため、子育て世帯だけではなく、幅広い年齢層の方が利用できる魅力的な施設である。
- 運営形態は、開館から当面は市の直営とし、その後は指定管理者制度を活用した民間による運営を予定している。既に、今後の運営を行う法人（市民協働型）も設立されており、そこのスタッフも一緒に働くことで、いろんな運営のノウハウを吸収できる仕組みとなっている。
- 利用料金（市内外で異なる）は高めであるが、利用にあたり時間制限がないという点では、時間を気にすることなく遊べるのはよいと感じた。
- こどもだけではなく、市のにぎわい拠点（行政・交流機能）としても利用されている点で、幅広い人が利用できる施設である。
- 質の高い木のおもちゃが沢山あり、こどもから大人までが楽しめる施設である。

(提言にあたり参考になった点)

- 施設の管理運営は、民間を活用するのがよい。（指定管理者制度または業務委託）
- 遊具に関しては、その後のメンテナンスやアフターを考慮すると、国内産がよいと感じた。
- 施設の立地場所と共に、多くの駐車場を確保することが大事である。
- リスクヘッジの観点から、スタッフが施設内全体を見渡せる空間での利用（遊具配置）がよいのではないかと感じた。
- 施設利用にあたっては、その後のメンテナンスなどを考えると無料ではなく、有料（適度な料金設定）にすべきである。
- 県内外に、多種多様な全天候型の子育て施設があるので、他にはないしっかりとしたコンセプトを持った施設を目指すことが大事である。
- 我が市においては、新たな箱ものを作るのではなく、学校再編計画に基づく廃校跡地の再利用を考慮した施設を検討するのがよいと考える。
- 施設整備にあたっては、親子連れだけではなく、幅広い年齢層の方も利用できる市民の憩いの場となるような施設を目指すのがよい。（空間や建物の階層で分けるなどの工夫が必要）
- 屋内だけではなく、屋外も利用できるようエリア全体での一体感を持った施設づくりが重要だ。

視察研修報告書

牧之原市議会議長 様

氏名 村田 博英

研 修 名	令和5年度 牧之原市議会文教厚生委員会視察研修
研修の期間	令和5年7月21日(金)
研 修 先	(1) 静岡県島田市 (2) 静岡県焼津市
研修の目的	(1) 静岡県島田市：「島田市こども館」について (2) 静岡県焼津市：「ターントクルこども館」について
<p>1 島田市こども館</p> <p>市の真ん中商店街にあり JR 島田駅から徒歩3分と地形的には便利、市外からの利用も多いようだ。</p> <p>遊具で大型トランポリンが大人も楽しめ面白そうだ。</p> <p>一時託児所や相談センター、ファミリーサポートセンターが併設されている。</p> <p>このほか多目的スポーツレクリエーション広場には県内最大級100種類の遊具がある、週末には大勢の家族が市内外から来る、例年10万人が来場する。</p> <p>両市とも10万人規模の市民数であり鉄道のない牧之原市と比べ、資金面でも比べようもないが、自然を生かし、遊び、学び、子育てに向け工夫をしていきたい。</p> <p>2 焼津市ターントクルこども館</p> <p>令和3年に開館。子供から大人まで楽しめる体験型美術館。</p> <p>東京おもちゃ美術館が監修している。地元の木を使い全体的に柔らかな雰囲気である。</p> <p>おもちゃ学芸員、絵本とサポーターを要請している。</p> <p>市民協働方運営体制の構築を目指し、市民スタッフは一般社団法人焼津子育て・多世代支援交流協会（コトコト）を設立した。</p> <p>市と協会はこども館を拠点とした子育て支援事業実施に関し、連携するための覚書を取り交わした。</p>	

視察研修報告書

牧之原市議会議長 様

氏名 松下 定弘

研 修 名	令和5年度 牧之原市議会文教厚生委員会視察研修
研修の期間	令和5年7月21日(金)
研 修 先	(1) 静岡県島田市 (2) 静岡県焼津市
研修の目的	(1) 静岡県島田市：「島田市こども館」について (2) 静岡県焼津市：「ターントクルこども館」について
<p>県内視察目的</p> <p>「人口増加に繋がる魅力ある子育て施策について」をテーマに子育て中の現役ママさんから市民会議を持ち、屋内外でも親子で遊べる遊戯の整った施設の要望が多かった。そこで近隣市町の各施設を参考に視察した。</p> <p>(1) 「島田市こども館」</p> <p>島田市は、「中央児童センター」の老朽化に伴い施設耐久性の問題から島田市中央市街の交流地点であった施設を平成24年新たに設置することになった。開設から11年の建造物である。しかし、建物に10年の歴史も感じられずとてもきれいで、1階にスーパーマーケット、2階3階に図書館などもあり、市民の生活に子どもから大人まで楽しめる機能を持った建物である。こども館は3階にあり乳児から未就学児童・更に小学生から大人まで十分に楽しめる施設でした。</p> <p><印象に残った良い点></p> <p>① 施設内では「安全」を最重要視して、必ず子供は転倒防止のため「裸足」になって遊べます。</p> <p>② 大人が必ず子供と一緒に遊ぶように入館前に説明を行っています。子供を施設で遊ばせて親同士で話に夢中になってしまい事故が起きやすい状況を無くすため、常に職員は親の目が離れていないかをチェックし、やさしく指導しています。子どもと親の共有された「遊び」の提供場所というコンセプトが浸透していると感じました。リピーターの多い点と、利用者の増加は少なくなったが、減少もしていないのは、11年経ってもこども館を支えている安全性を最も重要視した経営方針の表れと館長さんのお話から感じました。</p>	

<課題と思った点>

- ① 施設内の遊具について、開館当初はデンマークの最新体育理念に基づいた遊具を念頭に入れ安全性の高い大型運動遊具ボーネルンド社の製品で、とても見栄えもあり良いですが、メンテナンスについての将来性を考えると、非常にコストが高いと感じました。遊具の選定については「メンテナンス面」から海外製よりは、日本製の優れた選定も今後は必要ではないかと感じました。
- ② 館長よりお話があった。休館日を設けて、その休館日を利用して、障がい者の児童へ貸し切りで利用している事業は、とても、素晴らしい取り組みであります。しかし、年間では、数日の利用であり、障がい者児童へもう少し充実した取り組みが今後必要かと思いました。大変に難しい課題ではありますが、牧之原市でも取り組むべき課題ではないかと考えます。

(2) 「焼津市ターントクルこども館」

焼津市のこども館は、特徴として指定管理としてではなく、市の直営となっている点です。そして、「市民協働型の運営体制」を実現するため、市民人材の育成に力を入れ、将来的には育成された市民が法人設立になり、市が支援していくと言った方針です。従って現在の館長は「市の課長職」となります。

<印象に残った良い点>

- ① 基本理念とした「集い・遊び・学び」をコンセプトにした事業で、「本」については、特に幼児用「えほん」の多さです。どこの図書館に行っても人気の本は常に貸し出されていて手に入らない現状を打開して、常に補充を行い人気本へのアンテナ力も高いです。
- ② 焼津おもちゃ美術館では、大井川産木材を使用して「地元の木工職人による遊具等の制作」を行っている地元中心型の点。入館時にとても良い木の香りがして、落ち着きが出ます。その木を使って遊ぶプログラムを子供たちに提供し、「体験」を通して、「学ぶ」機会を想像している点です。
- ③ 未乳児から大人まで、そっと支える「学芸員」やボランティアの「サポーター」の優しいまなざしで、見守ってくれている教育力の強みがある点です。

<課題と思った点>

- ① 焼津市の中心に集中しているが、大型駐車場の不足を感じる。駅までの繋がりに駐車場の充実した点に難がある。
- ② 料金設定では、「高い」と感じたが、職員も感じてはいるが、地域的な点もあり、充実した施設なので、料金は打倒の見識と言われた。しかし、リピートとしてはやはり金額に抵抗感を感じる。2年目なので来訪者は多いと感じた。コロナ禍での開館でも使用者は多いほうであった。5年先の入館者の動向を見たい。
- ③ 「学芸員」や「サポート隊」の今後の人員補強に現在のところ、難はないが、職員に尋ねたところ、「開館当初はサポーターは制限するくらい好評であったが、今年から受講するにあたって受講費用を徴収してからは、減少している。その点から今後の人員不足を考えられます。

全体の考察

全般的に各施設の充実感があり、参考になりました。今後の課題としては、維持する人材の育成が必要と感じた。双方とも各施設の充実した「スペース」は、今後の参考となりました。本市において考えられるのは、学校再編の旧学校跡地利用に他ならないと思う。駐車場のスペースと、街の中心にあることから、耐震補強して充実した施設の将来像が見えます。とはいえ、島田市は本市の人口が、約2倍強・焼津市に至っては、牧之原市の3倍強と言った比較にならない程の差異があり、当然財政も違う中、牧之原市に見合った子育て支援の充実した「安心」「安全」施設の良いところを見出さなければ、牧之原市の特色は出せないと思います。出来ないことを目指すのではなく、出来る中でより良い施設に魅力ある街づくりを見出さなければならぬ。非常に難題ではあるが、近隣市町から牧之原市の「こども館」に足を運びたくなる魅力ある施設を目指したいと思いました。

視察研修報告書

牧之原市議会議長 様

氏名 加藤 彰

研 修 名	令和5年度 牧之原市議会文教厚生委員会視察研修
研修の期間	令和5年7月21日(金)
研 修 先	(1) 静岡県島田市 (2) 静岡県焼津市
研修の目的	(1) 静岡県島田市：「島田市こども館」について (2) 静岡県焼津市：「ターントクルこども館」について
<p>□島田市こども館</p> <p>○<u>研修の経過</u> 島田市こども館において、島田市議会事務局職員による開会の後、島田市子育て応援課長からは、当館は平成24年に完成し、この8月で11年経過。土日中心に市内外から多くの利用者（H29.4.23には50万人達成）があり、親子の居場所等になっている。今後はこども家庭庁が進めるこどもを真ん中に置いた施策展開を検討している旨の挨拶を受けた。次に、当市委員長から視察目的等の挨拶。続いて、子育て応援課長補佐から島田市こども館の概要等の説明を受け、質疑応答。その後、こども館内を見学し、最後に当市副委員長がお礼の挨拶を行った。</p> <p>○<u>説明の概要</u> ▽施設建設に至る経緯では、中央児童センター老朽化に伴い、中心市街地交流拠点施設を建設する際、児童館を新たに移転・設置することとなった。▽子ども館建設の目的は、様々な人々が交流する場を整備し、中心市街地に新たな賑わいを創出する。▽遊具の選定は、デンマークのボーネルンド社の製品を選定した。▽こども館（平成24年8月5日開館）は、4つの機能を持つ。事業費は、指定管理料3千万円/年。一時託児所運營業務4百万円/年。ファミリー・サポート・センター運營業務6,200千円/年。▽建設費等は、34億7,700万円（社会資本整備総合交付金事業）。▽こども館リニューアル（平成29年度）は、砂場を撤去し新たな遊具（1,271,268円）を設置した。</p> <p>○<u>所見</u> 全天候型のプレイルーム「ぼるね」と児童館機能を持つ活動室、一時託児やファミリー・サポート・センターの相談窓口も配備。平成28年市外の利用者が減少。その原因としては、藤枝市に、平成28年3月 れんげじスマイルホール「キッズパーク」ができたことなどによると分析している。島田市こども館では、休館日を利用して特別支援学校等特別開館事業が開催され、島田市立看護専門学校の学</p>	

生と参加された子どもは一緒に遊びを楽しみながら交流を深めたとのこと、また、おびレンジャー登場では、島田工業高校新体操部による演技・タンブリングに大人も子どもも魅了されたとのこと。本市における屋内施設の検討に当たっては、どういったプログラムを提供していくのが重要ではないかと感じた。

□焼津市ターントクルこども館

○研修の経過 焼津市ターントクルこども館において、館長の開会の後、こども未来部長の挨拶、当市委員長の挨拶、続いて子ども支援課長からこども館について概要説明を受けた後、質疑応答。その後、こども館内を見学し、最後、当市副委員長がお礼の挨拶を行った。

○説明の概要 ママ・パパになるなら焼津市を掲げ、子育て支援では5本の柱を立て、その一つ「子育て環境の整備」にターントクルこども館の建設を位置付けるとともに、整備基本構想では、「集い・遊び・学び」を基本理念に据えている。建設事業は、平成29年度から用地測量、基本構想づくり、平成30年度から31(R1)年度には建築設計や用地取得(1件)等、令和2年は建設工事等を行い、令和3年7月4日開館。総事業費は、約17.5億円(この施設は、ふるさと納税制度を財源の一部として活用)。こどもを中心とした多世代が交流できる子育て支援の拠点を目指している。機能としては、「おもちゃ美術館」(2階と3階)と、こども図書館「やいずえほん」と(1階と中2階)を有し、ほか、カフェレストランとミュージアムショップが入っている。入館料は、図書館は無料。美術館は市内在住の方は、未就学児無料から小学生100円、中高生200円、大人500円。市外在住の方は、1歳未満無料から大人1,000円。ほか、平日半年パスポートが用意されている。

運営体制は、開館時から当面は、市の直営とし、法人の設立を支援してきたが、現在は、社団法人ができ、議会の承認待ちの状況。当該法人が指定管理者となり、管理運営を担っていく姿「市民協働型」を目指していくとしている。

○所見 当館は地域の子育て支援施設であると同時に、みんなで作くり、みんなを楽しむ“市民立”ミュージアム&ライブラリーを目指すとしている。そのため、おもちゃ学芸員・えほんとサポーター養成講座等を開催している。美術館は、おもちゃと遊びの体験型美術館と位置付け、おもちゃと遊びの案内人となっていただくおもちゃ学芸員を養成している。また、絵本と訪れる人をつなぎ、絵本による豊かな体験を支える「絵本」の案内役や、モノづくりの魅力を伝える、電動糸鋸による木工作体験をサポートする「いとこのこ」おもちゃ学芸員の各養成講座(主催:焼津市・共催:特定非営利活動法人芸術と遊びの創造協会・東京おもちゃ美術館)を開催。このことから、美術館における市民らの活躍の場の提供や、こども図書館の環境づくりを整えるための仕組みの一つであろう養成講座とともに、ふるさと納税制度による「一口館長」カツオの積み木は、寄附者へのお礼として名前が刻印された積み木を館内に展示する制度。この制度には、焼津市内の障害福祉事業所スタジオプレアスが製作に関わっているなど、これら取り組みは特に参考になった。

視察研修報告書

牧之原市議会議長 様

氏名 絹村 智昭

研 修 名	令和5年度 牧之原市議会文教厚生委員会視察研修
研修の期間	令和5年7月21日(金)
研 修 先	(1) 静岡県島田市 (2) 静岡県焼津市
研修の目的	(1) 静岡県島田市：「島田市こども館」について (2) 静岡県焼津市：「ターントクルこども館」について
<p>文教厚生委員会は、人口増加に繋がる魅力ある子育て支援を目的に、市民会議で出た、雨天時でも遊べる場所として、島田市(人口96,005人)にある「島田市こども館」、焼津市(人口136,467人)にある「ターントクルこども館」を、視察いたしました。島田市こども館は、昭和53年に建造された中央児童センターが老朽化に伴い、児童館を新たに設置することとなり、子ども・保護者・家族と多世代が集まることで中心市街地に新たな賑わいを創出することを目的に造られた。図書館も有しており、遊具はヨーロッパから仕入れ特徴あるものになっている。実際に遊具に触れさせて頂いたが、大きなエアーマット等、どれも安全で安心して遊べるものでした。市外からも多くの方が遊びに来られるのも理解できました。続いて、焼津市では、「やっぱりママ・パパになるなら焼津市！」をキャッチフレーズとして、子育て支援施策を出している。ターントクルこども館は、「集い」「遊び」「学び」の機能を持ち、子どもを中心として保護者や幅広い世代の人々、子育て支援団体などが交流できる子育て支援拠点として、令和3年に開館した。メイン機能として・おもちゃ美術館・こども図書館があり、おもちゃ美術館では、木のおもちゃ遊びを通して豊かな出会いと楽しみを体感できる体験型ミュージアムとなっており、大人も楽しめ家族で遊べる場所でした。令和3年に開館したということで、料金や多くのお客様が来場した際の対応などの課題はあるが、これから課題解決に取り組んでいくという。両市の視察を終えて思うのは、牧之原市でも、市民と協力し合えば、既存の公園や建物、子供たちの居場所などを拠点として、市民や子育て世代に楽しんでもらう公園づくりは可能と感じました。是非、提言に繋げて頂きたいと思います。</p>	

視察研修報告書

牧之原市議会議長 様

氏名 石山 和生

研 修 名	令和5年度 牧之原市議会文教厚生委員会視察研修
研修の期間	令和5年7月21日(金)
研 修 先	(1) 静岡県島田市 (2) 静岡県焼津市
研修の目的	(1) 静岡県島田市：「島田市こども館」について (2) 静岡県焼津市：「ターントクルこども館」について
<p>静岡県島田市：「島田市こども館」</p> <p>子供が屋内で遊び回る施設として、非常に有用だと感じた。遊具は海外製とのことだが、メンテナンスなど課題がありそうなため、国内のもので十分だと感じた。</p> <p>委託費としては3000万程度であったが、7-9人ほど雇用している方がいるとのことではなかなか厳しい経営状況であると感じた。</p> <p>当市でこのような屋内公園を設ける場合は、人件費を抑えながら回すやり方を工夫して見出す必要があると感じた。</p> <p>静岡県焼津市：「ターントクルこども館」</p> <p>計上経費として1億円以上かかるということであった。相当立派なもので、ここまでのクオリティを牧之原市単独でやることはできないと感じた。ただ、市民団体の集め方、そしてその市民団体が経営することを見据えて、1-3年は市が直営で運営する点は非常に学びになった。</p>	